

## 第2回 SPARC Japan セミナー2014

「大学における OA ポリシー：日本版 OA ポリシーのモデル構築に向けて」

# Macmillan Science and Education(MSE) オープンリサーチ出版社

Antoine E. Bocquet

(NPG ネイチャー アジア・パシフィック)

### 講演要旨

ネイチャー・パブリッシング・グループ (NPG) とパルグレイブ・マクミランを傘下とする、マクミラン・サイエンス・アンド・エデュケーション (MSE) における OA ジャーナルの現状について紹介する。2013 年、NPG は世界第 4 位の OA 出版社で、64 誌に OA モデルを採用し、そのコンテンツの 38% が OA として出版された。出版から 6 か月後に一般公開をするセルフアーカイビングモデルを導入し、2005 年に OA 出版を開始した。ネイチャーの最初の OA ジャーナルである Nature Communication や Scientific Reports、Scientific Data、その他 Nature 関連誌に、著者が自身の論文出版形式を選択することで、OA ジャーナルへの投稿を可能とするモデルも提供している。また科学系とは違うニーズや要件を必要とする、人社系向け OA モデルへのパルグレイブ・マクミランの取り組みについて、大多数のジャーナルが OA モデルを導入しており、今年出版を開始した人社系で最初の完全な OA ジャーナル Palgrave Communications についても紹介する。

### Antoine E. Bocquet

ネイチャー・パブリッシング・グループ (NPG)、アジアパシフィック担当ディレクター。東京在住。アジアの学術出版業界に 18 年以上携わる。2001 年にアジアパシフィックの出版責任者として NPG に入社、2005 年にアソシエイトディレクター、2011 年 12 月にアジアパシフィック担当ディレクターに就任。中国を除くアジアパシフィック地域での中核事業を担当し、サイトライセンス・ビジネスユニット、アジア地域の学会誌などの出版事業、さらにマクミラン・メディカル・コミュニケーションズ (アジア部門) を統括する。また、NPG の一部門であるサイエンティフィック・アメリカンと日本経済新聞出版社との合併企業である日経サイエンス社の取締役を兼任。NPG に勤める以前は、東京にて、John Wiley and Sons のマネージングエディター (1998~2001)、Gordon & Breach のコミッションングエディター (1996~1998) を歴任。オーストラリア出身。東京大学大学院博士課程修了 (物理)。グリフィス大学 (ブリスベン) 卒業。1994 年より日本永住。



ネイチャー・パブリッシング・グループ (NPG) を本イベントにお招き頂きありがとうございます。これは、私たちが OA コミュニティと関わる貴重な機会になっています。今日は、NPG とパルグレイブ・マクミランの親会社である、マクミラン・サイエンス・アンド・エデュケーションの代表として発表させていただきます。

### なぜオープンリサーチは NPG に重要なのか

NPG にとって、オープンリサーチ/OA 出版はなぜ重要なのでしょうか。NPG は、質の高い研究を読者に届けるため、研究者が投稿できる OA 出版の選択肢を増すことにしています。OA 出版は、Nature の著者や読者にとって重要な数多くの目標を達成します。一つの目標は研究の透明性向上、もう一つの目標は、一般市民がすぐに閲覧できるようにすることです。一般

市民のアクセス可能性や学術コミュニケーションの透明性も、差し迫った課題です。こうした目標には、学術連携を促すツールを提供でき、一般市民も論文を閲覧できるという点で即時に社会的影響を与えられる、ウェブベースの提供媒体が適しています。これらの目標全てが、NPG の目標と一致しています。

Nature が初めて出版された 1869 年に戻り、当時の出版社の社是を見てみると面白いでしょう。創設当初とほぼ同じですが、数年前に現代化された企業理念をここで紹介します。「第一に、科学諸分野の重大な進歩の速やかな出版を通じて研究者に貢献し、科学に関するニュース・課題を報告し考察するための場を提供する。第二に、知識、文化、日常生活にとっての科学の重要性を伝える形で、科学の成果が世界の一般市民に速やかに普及するよう保証する」オープンリサーチの原則は、Nature 刊行当初に定められた目標を実現する方向へと私たちを確実に導きます。

この場を借りて、NPG の大きな変化を発表させて頂きます。私たちは数日前、Nature Communications を完全に OA 化すると発表しました。Nature Communications は 2010 年にハイブリッドジャーナルとして刊行され、現在 ISI のインパクトランキング学際科学部門で 3 位を獲得しています。この雑誌は、NPG が出版している Nature 関連誌の中で、唯一の完全 OA 化されたタイトルとなります。これは、OA 推進および質の高い研究の OA 出版に向けた、NPG の取り組みを反映したものです。Nature Communications のインパクトファクターは現在、10 を超えており、受領する投稿論文の 80%以上が却下されています。高いインパクトファクターは、OA モデルにおいても極めて重要なので、たとえビジネスモデルを変更しても編集上の基準は影響を受けない点に留意する必要があります。

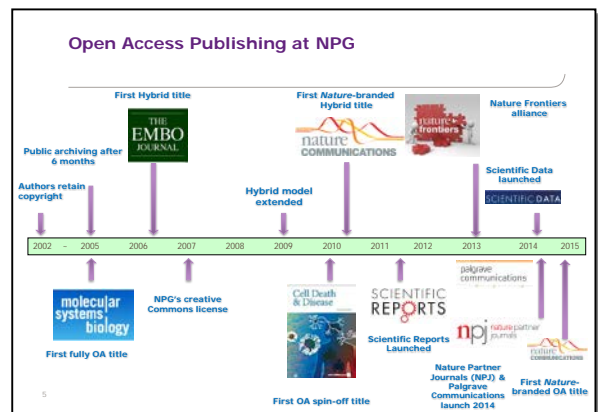
## NPG の OA 出版

これは、NPG の OA 出版活動の歴史と当社の現在のポリシー概要を示しています (図 1)。活動の起点は 10 年以上前に遡り、論文の著作権を著者が取得で

きるよう、出版ライセンスを変更しました。2005 年には、出版後半年以内にリポジトリに登録できるという現在のグリーンアーカイビング・ポリシーを導入しました。同じ頃、初の OA タイトルと、初のハイブリッドタイトルを出版し、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスを導入しました。しかし新たな OA ジャーナルを発売する 2010 年頃まで、NPG で使用できる OA の選択肢の数は増えませんでした。2010 年には、ハイブリッドタイトルの Nature Communications も刊行しました。NPG は 2011 年、論文をインパクトだけでなく学術的功績に基づき評価する、PLOS ONE モデルに基づく雑誌、Scientific Reports を刊行しました。2013 年には Frontiers 社との提携により、NPG は規模的に第 4 位の OA 出版社となりました。この頃、データセットの記述を掲載する Scientific Data、人文・社会科学系の OA タイトル Palgrave Communication、Nature Partner Journals などの OA 媒体を刊行しました。最終的には、Nature Communications を完全 OA 化するにいたりしました。

## Nature Communications

Nature Communications に関する事実・データを紹介します (図 2)。Nature Communications は現在、NPG 最大のジャーナルの一つです。ネイチャー関連誌内において最大の雑誌で、Nature より大きくなっています。掲載論文は依然として欧米が主体ですが、日本や中国からの投稿も増えています (図 3)。これは質の高い



(図 1)

研究の代表的なデータです。日本と中国からの投稿が、掲載論文合計の約 25% を占めています。Nature Communications がハイブリッドタイトルだった頃は、アジアの論文著者の 40%以上が OA ルートを選択していました (図 4)。

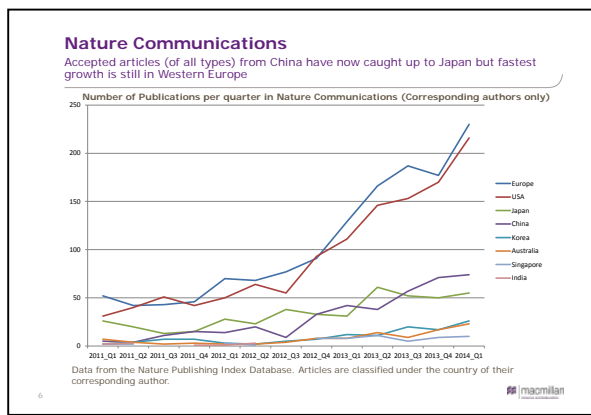
次に、NPG が提供している OA 出版の選択肢の一部を紹介します。当社は現在 64 のジャーナルを OA オプションありで出版しており、昨年は NPG 内で発表された全研究論文の約 40% がオープンアクセスで出版されました。

### Scientific Reports

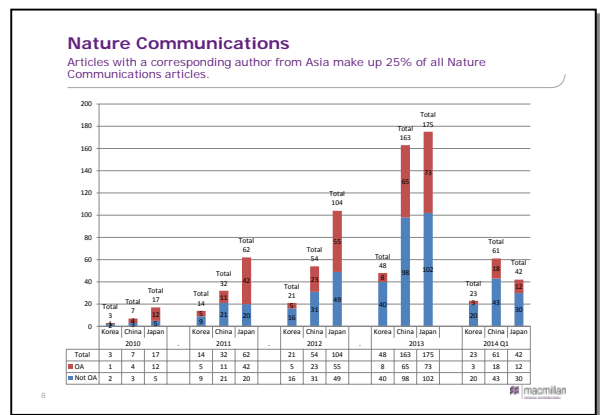
Scientific Reports は 2013 年にインパクトファクター 5 以上を達成しました。これは、JCR の対象雑誌中で上位 7% に位置します。Scientific Reports は昨年、約 2,500 本の論文を出版し、現在は月に約 500 本の投稿

を受領しています。発表論文の約半数がアジアからのものです。興味深いことに、社会的影響力を評価する Altmetric Top 100 で第 1 位に選ばれた論文は、Scientific Reports の掲載論文でした。ここにいらっしゃる皆さんは、1 位になったその論文が、福島の世界的な影響を示唆する論文であったことにご興味を示されるかもしれません。パルグレイブ・マクミランも、人文系の研究者を対象とした OA モデルの実施に取り組んでいます。人文系の学際的ジャーナル Palgrave Communications が、今年新たに刊行されました。Scientific Reports に関しては、中国や他のアジア諸国の論文が大幅に増えています (図 5)。日本の著者は、約 12% を占めています (図 6)。

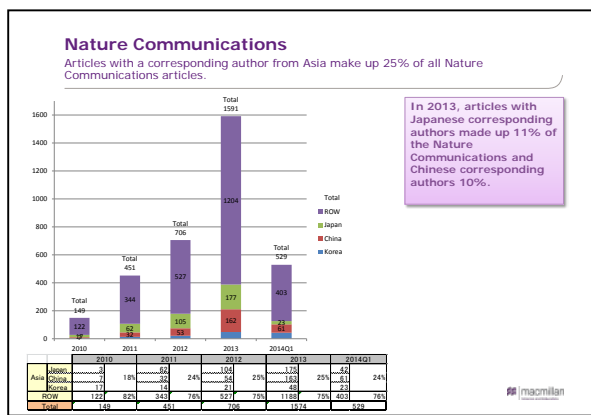
### Nature Partner Journals



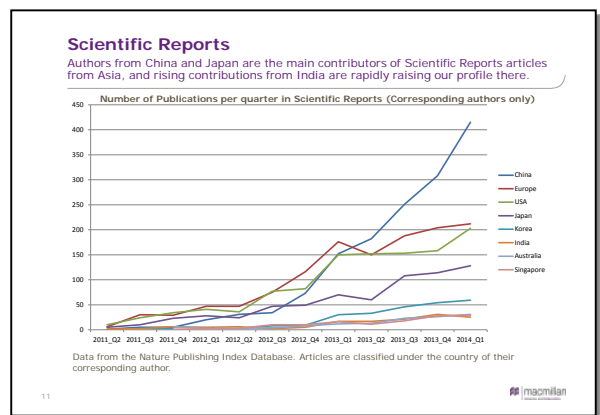
(図 2)



(図 4)



(図 3)



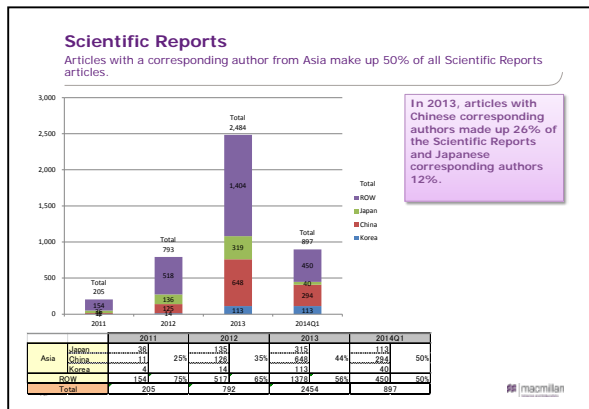
(図 5)

最後に Nature Partner Journals についてお話しします。

Nature Communications は、質は極めて高いものの、Nature や関連誌を若干下回る水準の研究を対象とした、学際ジャーナルを刊行する試みとして発行されました。

Nature Partner Journals は、質的な目標は同じですが、ニッチな研究コミュニティを対象とし、現在発展中の新たな学術分野を扱うために企画された、新たな OA ジャーナルです。Nature Partner Journals の刊行は実際、Nature レビュー誌以来初めてとなる Nature ブランドの拡張に当たります。また当社の OA 化への取り組みを示すものでもあります。Nature Partner Journals は、NPG と完全な提携関係にあり、NPG が定める極めて高い編集基準に従うことを目指すという点で、従来の学会誌とやや異なります。今や、私たちが協力できるパートナーは、学会だけに限りません。研究機関や大学を含めた、新たな研究分野において質の高い研究論文を自由にアクセスできるようにしたいという目標を持つ、適切なパートナー候補全てと協力することが可能です。4月にこの事業が発足して以来、6機関との提携が発表されました。うち二つは日本の機関です。

Nature Partner Journals は、従来は質の高い OA 出版の選択肢が存在しなかった分野に OA 出版を拡大するチャンスを与えてくれます。ご清聴ありがとうございます。



(図 6)